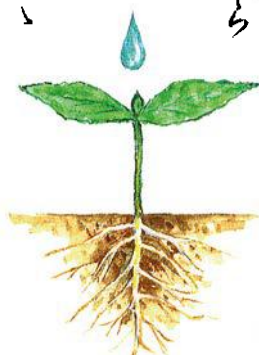


内科 小児科 漢方
産科 婦人科
浮田医院
だより



第 87 号

医療法人 せゝらぎ会

発行所：浮田医院

〒520-1214 滋賀県高島市安曇川町末広3丁目28

TEL 0740-32-3751

FAX 0740-32-3795

ホームページ: <http://www.ukita.gr.jp>e-mail: kanpou@ukita.gr.jp

発行日：2010年1月5日(火)

発行者：浮田 徹也



漢方薬のよさ(87) 漢方と流派 IV

明けておめでとうございます。

昨年から、無駄をなくすために、色々な分野で見直し作業が実施されていきます。いつまでも存在し続けるためには欠かせないことでしよう。当院も「事業仕分け」に取り込んでいます。診察方法、土地、建物、医療機器、医療材料、薬剤、消耗品、パンフレット、食事、職員・・・少しずつ変わっています。また、新しい時代に対応できるように変わらなければいけません。今年の言葉は「新」です。新しい医療機関を目指して進んで行こうと思っています。皆さまからの叱咤激励が必要です。よろしくお願ひします。一月及び二月は、それぞれ、大阪及び京都で多くの医師に出会います。私にとって多くのことを学ぶ絶好の機会と思っています。なお、皆様方のため、できる限り「季節型インフルエンザ予

防接種」「新型インフルエンザ予防接種」をご用意する予定ですので、いつでも受付にお問合わせください。

漢方の流派 IV のお話です。

せせらぎ四九号、五八号、六一号、七三号、七九号も参考にして下さい。

古代中国では、「巫」による医療が中心でした。傷寒論を著述した



中神 琴溪



比良の日の出 (滋賀県大津市)

とされる張仲景の大きな功績は、「巫から医療を分離」し、不勉強な医師たちに指示書を作成して、傷寒の経過とともに現れる症候群に対する漢方薬を挙げたことです。また、江戸時代に、「梅毒」の治療に難渋した時に、それまでの中国医学(陰陽五行説や臟腑経絡説)は空理空論だ、役に立たないと主張した吉益東洞は、「驅梅毒法(水銀療法)」を発見して患者の七〇八割を治したと言われます。その時代に即した医療をするために、生薬の薬能効果を研究して実用的な治療を試みた立派な医師と言えます。現在、日本漢方の流派の中心は「古方派」です。適応処方(例えば葛根湯)を投与すれば治療できる症候群(首や肩こり、悪寒、無汗、脈浮数実、食欲不変などの症状)を「証」と言い、この「証」の診断が付けば即座に治療が可能とされています。これを「方証相對」と言い、特定の「証」には、特定の「漢方薬」しかないと考えられています。しかし、「証」は病気の「証」で、それに合った「漢方薬」を生薬の薬能を熟知して処方しようと言う風潮が芽生えています。



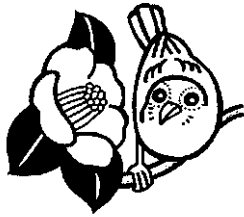


実例に移ります。

三十五歳女性、**腰痛症**、分娩（三回目）後三ヶ月、授乳中、食欲良好、便秘（三日に一回）。休憩や入浴で腰痛（下腰痛）改善、疲れた冷えて下腹部が痛む「子宮や卵巣は正常」。顔色は青白く、腹は柔らかく、下腹部軟弱、臍傍に軽度抵抗圧痛、舌は淡紅色、湿乾薄苔、舌下静脈軽度怒脹、脈は沈、遅、弱。そこで、桂枝、木通、大黃、烏藥、牡丹皮、桃仁、延胡索、牽牛子（八味疝氣方）を処方。二週間で改善。三ヶ月服用後廃薬。

七十二歳女性、**糖尿病**、口渇、夜間尿（五回）、食欲良好、便秘（二日に一回）。顔色良好、脈浮滑数、舌紫紅色、乾薄白黃苔、舌下静脈怒脹。上下腹部の弾力性中程度、胸脇苦満（一）、胃内停水（十）、臍上下悸（十）。そこで、茯苓、白朮、蒼朮、沢瀉、陳皮、甘草、芍薬、地黄、大黃（加味消渴湯加減）、オイグルコン、ベイスンを処方。一ヶ月後、口渇減少及び夜間尿減少。六ヶ月後、口渇（一）、夜間尿二回に減少。五年後の現在も服用中。

二十九歳女性、**生理痛**（鎮痛剤



〔院長〕

無効、月経過多）、腹満（ガス貯留）、食欲良好、便秘（二日に一回）、排卵痛。顔色良好、腹部弾力性中程度、心下痞硬、両側臍傍抵抗圧痛（十）、脈は細、沈、実、舌は、紫紅色、薄乾白苔。そこで、桂枝茯苓丸＋安中散＋サフランを処方。二ヶ月後、鎮痛剤を服用すれば月経痛消失。四ヶ月後、鎮痛剤不要。二年間服用後廃薬。現在、月経中の鎮痛剤不要。

インフルエンザA型、五歳男児、発熱（三十九℃）、鼻水、鼻閉、咳、食欲低下。顔は紅潮、腹は軟、右胸脇苦満、脈は浮緊数。舌は淡紅色、乾白黃色苔。そこで、麻黃湯＋越婢加朮湯＋小柴胡湯（各一・五包）（分三）二日分処方。三日後解熱。次回は、**五臓一**です。



腰痛症

脊椎、靱帯や筋肉疾患（脊髄腫瘍、腰椎椎間板ヘルニア、腰椎圧迫骨折など）、内臓疾患（腎盂炎、子宮内膜症、子宮下垂、子宮付属器炎など）、心理的要素（うつ病、心身症など）、血行不全（瘀血）、むくみ（水毒）などが要因になります。年齢、天候、季節（エアコン）、体形（むくみ）、年齢、筋肉痛（筋緊張度、部位、部位の変動）、疲労、お産（産後）などを参考にします。



糖尿病

I型糖尿病（膵β細胞が破壊）とII型糖尿病（インスリン分泌不全）があり、日本人に多いのは、II型糖尿病で、運動（インスリンの感受性を高める）、過食や遅い夕食を止めることが大切です。漢方薬は網膜症、腎症、神経障害などの微小循環障害（瘀血）を改善し、体全体の機能（腎）を高めるのに適しています。HbA1cが高値になると西洋薬を併用する機会が多くなります。



生理痛

子宮内膜症、子宮筋腫、クラミジア感染症、子宮奇形（双角子宮、中膈子宮）、骨盤うっ血症候群（子宮旁組織炎）、胃腸虚弱、冷えや血液循環障害、精神不安、疲労などが原因で、子宮筋肉を流れる血液が相対的に不足するために起こります。検査（超音波、血液、尿、子宮頸管分泌物）や診察（問診、四診〔腹、脉、舌〕、内診）で適切な漢方薬を選びます。



当院の漢方治療



剤型

- ・エキス漢方薬：錠剤**タイプ**の漢方薬と顆粒**タイプ**の漢方薬があります。
- ・漢方煎じ薬：良質の生薬を組み合わせた漢方薬。**40～60分煮**で作ります。
当院の**顆粒タイプ**の漢方薬は、胃になじみやすい反面、湿気に弱いので、乾燥剤の入った容器に入れ、**しっかり蓋**をして下さい。それでも固まる場合、**冷蔵庫(冷凍庫)**で保管して下さい。
漢方薬が固まりやすい場合、当院の**漢方薬専用容器** (無料) をご利用下さい。

適応症

- 便秘、頭痛、肩こり、腰痛、食欲不振、疲れ、冷え、むくみ、痛み、痺れ、動悸、めまい、ほてり、発熱、かゆみ、排尿障害・・・などすべての症状。
- ・漢方薬のよく効く疾患
アトピー性皮膚炎、更年期障害、便秘、腰痛、肩こり、子宮内膜症、子宮筋腫、生理痛、冷え性、不妊症、低血圧、めまい、頭痛、動悸、過敏性大腸、慢性疲労、風邪、肥満、夏ばて、慢性肝炎、肝硬変、慢性胃炎、慢性膀胱炎、慢性胆嚢炎、胆石、胃十二指腸潰瘍、痛風、慢性膀胱炎、血尿、前立腺肥大、蕁麻疹、接触性皮膚炎、にきび、慢性中耳炎、慢性扁桃腺炎、慢性副鼻腔炎、口内炎、口腔乾燥、虚弱児、切迫流産、妊娠中毒症、産後回復不全、乳腺炎、乳汁分泌不全、乳腺症、上下肢浮腫、膝関節症、神経痛、帯状疱疹後神経痛、下肢静脈瘤、クーラー病・・・
- ・漢方薬と西洋薬を併用することの多い疾患
高血圧、高脂血症、高コレステロール血症、アレルギー性鼻炎、不眠症、自律神経失調症、うつ病、骨粗鬆症、糖尿病、慢性関節リウマチ、痔、肝硬変、喘息、腎炎、甲状腺疾患、夜尿症、脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、抗癌剤使用後倦怠感、抗癌剤使用時副作用・・・

エキス漢方薬と漢方煎じ薬

- ・軽症 ・ 程度の病氣：漢方製剤（顆粒あるいは錠剤）を組み合わせで治療。
- ・重症の病氣、エキス剤が無効：漢方煎じ薬で治療。

女性の方、男性の方、お子様、高齢の方、ご相談下さい。

問診、望診(舌診)、聞診、切診(腹診と脈診)の東洋医学的診察法(四診)や検査(超音波、血液、便、尿、痰、膣分泌物、心電図、骨量測定・・・)などを利用して、漢方薬を決めます。

骨量測定 (4～6ヶ月ごと)

1分で測定(極少量のX線吸収を利用)。結果は、直ぐにお渡しします。骨破壊度の検査(尿)も実施しています。

予約ー漢方外来

土曜日の午後、予約・漢方外来があります(予約制、2回/月)。
午後2時～2時20分、2時20分～2時40分、2時40分～3時
3時～3時20分、3時20分～3時40分、3時40分～4時。
日程は掲示板やホームページでご確認ください。(電話予約可)

アトピー軟膏 健康食品(グルコサミン、コンドロイチン)

漢方薬(生薬)のみで作られた軟膏です。

- ・紫雲膏・太乙膏 ・ アガリクス・メシマコブ
- ・靈芝 ・ AHC ・ サメ軟骨 ・ 快歩楽

漢方入浴剤

- ・美芳湯：冷え症、湿疹、あせも、にきび・・・
- ・昇竜湯：腰痛、肩こり、神経痛、疲労回復・・・
- ・アトピーの方の漢方入浴剤もお作りします。

健康保険証の確認

保険証は毎月確認することになっています。保険が使えなくなると困りますから、**保険証の変更**は、早急に受付に連絡して下さい。

在宅療養の支援とは

患者さんあるいはその家族の人と相談のうえ、その家族を訪問し、**計画的に診療と治療**を行います。
往診と違い、**定期的に(月に2～12回)訪問診療**を行い、患者さんの健康を管理します。
在宅療養の支援についてお気軽にご相談下さい。

スーパーライザー (神経照射)

赤い温かい光(近赤外線)で血行をよくし、腰痛、肩こり、五十肩、膝の痛み、ムチウチ、捻挫、アトピー性皮膚炎、花粉症、ストレス・・・などの治療に利用しています。

皮内針、針管付き鍼

皮内針の長さは1～2mm、針管付き鍼の長さは30mm、いずれの鍼も刺す時の痛みはありません。肩こり、膝関節痛、腰痛、足の痛、筋肉痛、頭痛・・・の治療に適しています。

インフルエンザワクチン接種 (季節型、新型)

季節型インフルエンザワクチンと新型インフルエンザワクチンの接種を実施しています。詳しいことは受付でお尋ねください

外 来 診 療 時 間

	月	火	水	木	金	土	日
午前9:00～正午	○	○	○	○	○	○	—
正午～午後0時30分	—	—	産後健診(予約可)	—	産後健診(予約可)	—	—
午後2:00～午後3:30	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	母乳相談(予約) (有料)	予約-漢方外来 (月2回)	—
午後2:00～午後4:00	在宅訪問診療	(手術)	在宅訪問診療	(手術)	在宅訪問診療	—	—
午後5:30～午後7:30	○	—	○	—	○	—	—

- ◇漢方外来 (月～土): 内科、小児科、皮膚科、産婦人科、整形外科、耳鼻科、眼科など全科の漢方薬による治療。
- ◇予約-漢方外来(2回/月 土曜日): 午後2時～2時20分、2時20分～2時40分、2時40分～3時、3時～3時20分、3時20分～3時40分、3時40分～4時 電話予約可(日程はホームページ、掲示板参照)
- ◇更年期外来(月～土): 更年期の方、思春期の方(女性、男性 どなたでもお越し下さい)
- ◇不妊 外来(月～土): 赤ちゃんの欲しい方 (ご夫婦でもお越しになれます)
- ◇妊婦 外来(月～土): 妊婦健診、妊娠中の方
- ◇産後 健診(水、金曜日)(有料): 正午～午後0時30分 電話予約可 赤ちゃん健診(1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月) 産後健診
- ◇母乳 相談(月～金曜日)(有料): 午後2時～2時30分、2時30分～3時、3時～3時30分 乳房マッサージ 電話予約可

前期と中期-母親教室

日時: 1月9日、2月6日、3月13日、4月3日の各土曜日
対象: 妊娠7ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

場所: 当院別棟 多目的ルーム 申込方法: 申込ノートでご予約をお願いします。*ご主人様もお気軽にご参加下さい。立会い分娩ご希望の方は 特にご参加をお勧めします。(申し込みノートにお名前を記入をお願いします)

後 期 - 母 親 教 室

日時: 1月13日(水)、1月23日(土)、2月3日(水)、2月13日(土)、24日(水)、3月6日(土)、3月17日(水) 3月27日(土)
対象: 妊娠8～10ヶ月までの方(定員7名位)(無料)

母親教室のお知らせ

母親教室では、“母と子のてびき”にそって、お話をすすめています。参加時には母子手帳とともに、忘れずにお持ち下さい。(“母と子のてびき”は、分娩予約時に受付でお渡ししています。)

ご主人と一緒に参加される場合は、必ず申し込みノートに予約の記入をお願いいたします。



中神琴溪(1743～1833)

草津の南山田に生まれ、大津の医家中神家を嗣いで医師となり、女郎の梅毒治療に輕粉を用い、その後京都や江戸でも活躍した。六角重任や吉益東洞の医術に傾倒した古方家、漢蘭折衷家、実学即ち体験を重視し、「事実を尚び、実学を学べ」、「医学をするのは何の為ぞ、疾を癒やすこそ肝要るべけれ」と口授し、『生生堂医譚』『生生堂雜記』『生生堂治驗』『生生堂養生論』などの著書がある。門人に、著書に『吐方論』のある喜多村良宅がいる。



分娩予約

妊娠20週までにに受付で予約して下さい。ご予約には、分娩予約カードが必要です。予約された方には、母と子のてびき、入院誓約書、直接支払い制度合意書をお渡しします。

里帰り出産を予定されている方へ

当院は里帰り出産を受付ています。妊娠24週ころ(母体と赤ちゃんの状態をチェックします)に1度診察においてください。当院での妊婦健診は妊娠34週から受けてください

パソコンホームページ(hhttp://www.ukita.gr.jp)

トップページ(お知らせの欄、診療日程カレンダー)
産婦人科のページ(入院、食事、各種教室、指導)
漢方治療のページ(外来、漢方治療の範囲)
老人医療のページ(在宅療養の支援)
健康のページ(健診、ブライダルチェック、予防接種)
当院の施設案内、当院への交通(車、J R)

産後相談 母乳相談(助産師)

産後相談と母乳相談(有料)(乳房マッサージ)をしています。午後2時～2時30分、2時30分～3時、3時～3時30分。日程は掲示板やホームページでお確かめください。(電話予約可)

正常分娩の入院日数

正常分娩の場合入院日を含めて入院期間は6日間です。初産婦の方、経産婦の方も同じ入院日数です。分娩希望の方はすべて受け付けています。

赤ちゃん健診

産後健診と1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月健診をしています。日時: 毎週水、金曜日 正午～午後0時30分(有料)

入院食(手作り)

心のこもった手作り料理です。素材、味付け、メニュー……など、絶えず工夫し研究しています。

産科医療補償制度

分娩により重度の脳性麻痺となった児及びその家族の経済的負担を補償し、原因分析と再発防止策を講ずるための制度。当院でお産される方に、10月より登録証を発行する予定です(妊娠5ヶ月ころ)。詳細は受付でお聞きください。